

足柄上地区在宅医療・介護連携センターだより⑤

『足柄上地区でのこれからの地域包括ケアシステム～これからどうする～』

元年7月23日(火) 19時～21時 開成町民センター

講師：東京大学高齢社会総合研究機構特任教授 辻 哲夫 先生



参加者は87名でした。アンケートからは、地域包括ケアシステムを理解して説明するのは、わかっているようで難しいと感じている方も『今回の講演が一番わかりやすかった』との感想が多かったです。辻先生からは、行政と医師会と一緒にまちづくりをしていくことが大切と強調されました。

意見交換の時間を設けてみましたが、積極的に意見を述べて頂き理学療法士からはもっとつながりたいとラブコールを受け、薬剤師の方からは、来所する方へのフレイルチェックや多職種が立ち寄れる「介護カフェ」構想も出てきました。西田課長さんやアンケートからもお互いをリスペクト出来るよう楽しく交流できる場が必要だと意見を頂きました。前向きに検討していきます。(後ろの席は音響の影響で聞き取りづらかったようです。申し訳ありませんでした)



医療・介護地域連絡会 5月10日・7月12日・9月13日

『痙縮の治療』バクロフェン髄注療法について 県立足柄上病院脳神経外科 濱田幸一先生

5月10日参加者89名 バクロフェン治療について初めて知った方が多く、動画や事例紹介でわかり易く、苦痛や症状の緩和につながる治療法であることが理解できました。



『生き生きと働ける魅力ある職場づくり』緑蔭診療所 橋口玲子先生

先生の柔らかい雰囲気と話し方で具体的な言葉かけや考え方を講義されたのでわかり易かった。コミュニケーション能力は人柄ではなく『技術』です。職場の人付き合いは「個人」対「個人」ではなく、「役割」対「役割」です。仕事の課題を達成するための手段である。などキーワードとなりました。



『アドバンス・ケア・プランニング～あなたは どうやって気持ちを伝えますか？』

7月12日 参加者66名 横浜市立大学医学教育学・総合医療医学教授 太田光泰先生
人生会議と名づけられたACPが、今後の医療・介護についての合意形成のプロセスであるとわかった。また、AD(事前指示)との違いについての確認ができた。プロセスとして患者の価値観の明確化とその共有(代理意志決定者、家族、医療者)をする事で患者自身の自己コントロール感が高まり、患者及び家族の満足度が向上、遺族の不安や抑うつが減少することの効用が証明されている。



『情報って何だろう？何故必要？』9月13日 参加者57名 グループワーク(GW)

①在宅療養移行時、施設入所時、入院時どのような情報が必要かわかる ②情報は何故必要、何故共有する必要があるのかかわかるというテーマでGWしました。改めて情報の意味や価値、必要性についてそれぞれ経験した事例を通して確認しあえた。《利用者の命と生活を支え、守る》為という目的が共有された。また、医療と介護をつなぐ為、多職種の視点から情報を捉えることが出来視野が広がった。今回は、足柄上病院に配置された各病棟のリンクナースも参加し、地域を知る良いきっかけとなりました。





元年 9月20日(金) 19時~21時 南足柄市文化会館小ホール

2017年に《介護のチカラで南足柄を一番にする会 NEXT10》が設立され毎月勉強会を重ねてきました。今回は、南足柄市社会福祉協議会の共催を得て『あなたが考える介護のプロとは?~みんなで介護を語りませんか?』のテーマでシンポジウムを開催したので取材に行ってきました。

コーディネーターにほうとく 式番館の鳥海忠明さんと足柄上センターの西田統保健康福祉課長、シンポジストが GH や特養、訪問介護、小規模多機能、ケアマネの方々でした。「介護は利用者の尊厳を大切に、その行動の理由を理解しようと想像力を働かせること。仲間との信頼関係を築くことで仕事が続けられる」などシンポジスト達の熱いことばに仕事へのやりがい、楽しさを感じました。このプロ意識と熱意を若い方やこれから介護を目指す方、介護者、利用者の方にも聞いてほしいと思いました。



GH と訪問介護事業所に入所施設の情報交換会が増えました

グループホームと訪問介護事業所・小多機の情報交換会は2か月に1回のペースで開催しています。情報交換はできていますが、30分と短いので課題等が深まらないことは課題と感じています。9月には、終了後に合同で納涼会を開催し、自己紹介も楽しくできましたし、バーベキュー大会の企画も生まれました。また、今年度から入所施設の情報交換会(第1回は7月29日)も開催してみました。他施設の状況を知る機会となり、お互いに質問が多かったです。



看取りの学習会始まる

今年度から上病院の緩和ケア認定看護師の方を講師に全6回のコースで『看取りの学習会』が始まりました。前半3回が終わり、看護師から介護福祉士、ケアマネまで幅広く、平均52名の方が参加されています。1回目:介護者の看取りの不安を軽減し、適切なケアを提供する人材を育成するという目的から今後は、多死社会に向けて施設での看取りが増えていく。「何もしなければならなかった」と捉えがちだが、看取りを自然な経過としてケアする、仲間と共有していく。2回目:ACPとは、本人の価値観を理解し、生きてきた「人生の物語」を共有する。みんなが事態を理解して覚悟して受け入れていくプロセス。元気なうちに話し合っておくことが大切ということで4人1組で「もしもの時にあなたは何を大切にしたいですか」という



ドゲーム『もしバナゲーム』をしました。介護者自身の「死生観」や「価値観」に気がつき、周りの方の考え方にも共感できました。3日目:看取りの実際として終末期の身体の変化や家族へのケア、看取りの観察、記録の仕方について学びました。30分と短い時間でしたが、具体的で丁寧なお話でした。



お知らせ

来たる11月26日(火)19時~21時開成町民センターにて専門職対象の研修会を予定しています。全国在宅療養支援診療所連絡会会長、日本在宅ケアアライアンス議長である新田國夫先生に『新しい在宅医療の方向性』と題して講演があります。最後に意見交換も予定しています。お早めにお申し込みください



編集後記:令和元年が始まりました。来年は2020年でオリンピックイヤーですね。皆さん、チケット取れましたか。人生で2回目の東京オリンピック、日本で観戦できることを幸せに思います。センターだより第5号は4月~9月の事業報告です。足柄上地区在宅医療・介護連携センター ☎43-8172・FAX43-8176

